

パリ協定後の日本の産業を考える

(オーガナイザー：玄地裕(産業技術総合研究所))

3月8日(木) 10:40~12:00

概要：

世界が目指す 2050 年、2010 年比 40~70%GHG 排出削減に向けて、日本の産業界も低炭素社会実行計画からさらなる削減の積み上げが必要となる。一方、GHG 排出削減制約は、その大きさからエネルギーインフラ、輸送構造のみならず、産業構造を大きく変える可能性もある。そこで、昨年より日本 LCA 学会の研究会としてパリ協定後の産業研究会を実施し、2050 年の産業を考え、産業界が 21 世紀末までのネットゼロエミッションにむけた社会としての温暖化対策について考えるべき項目(クリティカルポイント)についての検討をおこなっている。

本企画セッションでは、これまでの議論の内容等について紹介するとともに、シナリオプランニングへの取り組みに定評があるシェルシナリオチームに所属経験がある木原氏を招き、シェル流シナリオプランニングの考え方やシナリオ事例をご紹介いただく。聴衆も含めて双方向の議論を行うことで、多様な観点からそのクリティカルポイントの方向性を探っていく。

プログラム(80分)

- ・本企画セッションの趣旨と研究会の報告
(国研)産業技術総合研究所 玄地 裕
- ・シェル流シナリオプランニングの考え方や事例紹介
昭和シェル石油(株)経営企画部 木原正樹
- ・意見交換

プログラムは当日変更の可能性があります。